

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	国語(漢文)
----	--------

試験時間	105分	満点(配点)	文 400点, 教育 600点, 経済 500点, 医(医) 150点,	出題数	現代文 1題, 古文 1題, 漢文 1題
------	------	--------	---	-----	----------------------

総括	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉
 昨年度は羅隱『両同書』から出題され、総字数298字・問題数7問であった。本年度は『後漢書』から出題され、総字数311字・問題数6問であった。問題数は1問減って例年並みとなったが、長文の出題は続いた。内容は比較的わかり易い史伝であるが、問五・問六など、解答作成にはかなりの時間を要したことであろう。特に問六の百五十字以内の要約説明問題は、教育学部・経済学部・医学部の受験生にとって、かなりの負担となったことであろう。

〈合格への学習対策〉

- ・ 頻出句形を十分マスターしておくこと。
- ・ 説明問題に対処するため読解力・表現力を身につけておくこと。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
三	史伝	范曄『後漢書』	311字という長大な文であり、正字体(旧漢字)が多く用いられている。説明問題が多く、総じてかなりの難問と言える。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
三	問一	記述	単語の読み。3問。	易
	問二	記述	訓点付き6字の現代語訳。「在須臾」。	標準
	問三	記述	返り点付き7字の書き下し。「未」。「絶」。	易
	問四	記述	指示内容の説明。2問。	やや易
	問五	記述	内容説明。	やや難
	問六	論述	本文を要約しながらの理由説明。(150字)	難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。